



7:1 それで、エルバアル、すなわちギデオ
ンと、彼にいっしょにいた民はみな、朝早く
ハロデの泉のそばに陣を敷いた。ミデヤン人
の陣営は、彼の北に当たり、モレの山沿いの
谷にあった。

7:2 そのとき、主はギデオンに仰せられた。
「あなたといっしょにいる民は多すぎるから、
わたしはミデヤン人を彼らの手に渡さない。
イスラエルが、『自分の手で自分を救った』
と言って、わたしに向かって誇るといけない
から。」

7:3 今、民に聞こえるように告げ、『恐れ、
おののく者はみな帰りなさい。ギルアデ山か
ら離れなさい』と言え。」すると、民のうち
から二万二千人が帰って行き、一万人が残っ
た。

7:4 すると、主はギデオンに仰せられた。
「民はまだ多すぎる。彼らを連れて水のとこ
ろに下って行け。わたしはそこで、あなたの
ために彼らをためそう。わたしがあなたに、
『この者はあなたといっしょに行かなければ
ならない』と言うなら、その者は、あなたと
いっしょに行かなければならない。またわた
しがあなたに、『この者はあなたといっしょ
に行ってはならない。』と言う者はだれも、
行ってはならない。」

7:5 そこでギデオンは民を連れて、水のとこ
ろに下って行った。すると、主はギデオンに
仰せられた。「犬がなめるように、舌で水を
なめる者は残らず別にしておき、また、ひざ
をつけて飲む者も残らずそうせよ。」

7:6 そのとき、口を手当てて水をなめた者
の数は三百人であった。残りの民はみな、ひ

ざをついて飲んだ。

7:7 そこで主はギデオンに仰せられた。「手
で水をなめた三百人で、わたしはあなたが
たを救い、ミデヤン人をあなたの手に渡す。
残りの民はみな、それぞれ自分の家に帰ら
せよ。」

7:8 そこで彼らは民の糧食と角笛を手にと
った。こうして、ギデオンはイスラエル人を
みな、それぞれ自分の天幕に送り返し、三
百人の者だけを引き止めた。ミデヤン人の
陣営は、彼から見て下の谷にあった。

主が人数の多さによって勝利される方ではない
ということがわかります。三万二千人いた兵士が
たったの三百人になりましたが、主の戦いのため
にはその方が良かったのです。とはいえただ減ら
したではありません。主の戦いにふさわしくな
い者は退けられ、ふさわしい者が残ったのです。

まず第一に恐れている者は退けられました。恐
れの原因は色々あったでしょう。敵という問題の
大きさを見て、主の偉大さを忘れてしまう。味方
の弱さ足りなさというマイナス面ばかりを見てし
まう。さらにはそのように恐れている味方を見て
は、「この群れは一致がない」「力がない」と批
判する。またはその批判者を見て、「これでは勝
てない」と思うってしまうなどなど…。恐れとい
うものは伝染します。主はそのような者はいない方
が良いと判断なさるのです。

また第二には危機感のない者が退けられました。
ひざをつけて犬のように水を飲むなら、周囲の様
子が分からなくなりますし、突然敵が襲って来た
ときに、とっさに身をかわすことができないので
す。しかし手で水をすくって飲むなら、ひざをつ
いて顔を上げたままですから、様子も見えますし
襲撃に対処できます。危機感のないいい加減な雰
囲気もまた伝染します。主は三百人で戦うこと
をよしとされたのです。

数の多さを頼みとするよりも、主を信頼し、
危機感をもって主に従う備えのできた人を、
働きの力と認識しましょう。またそのような
働き人となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願い
など）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

